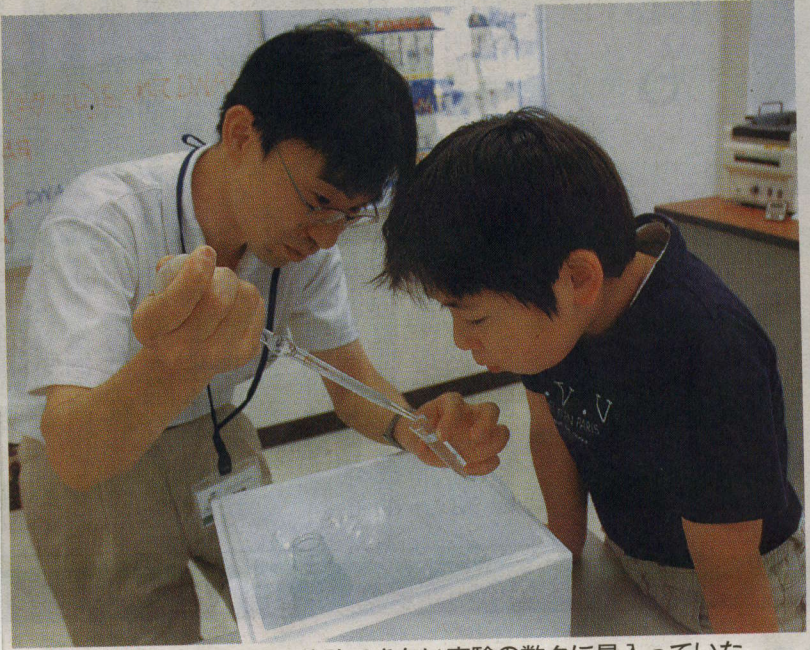


# 体感・DNA採取や-200度<sup>000</sup>

福島大 子ども向けサイエンス教室



子どもたちは普段は体験できない実験の数々に見入っていた

ふくしまきょうりゅう

子どもたちに科学への興味を高めてもらおうと、福島大共生システム理工学類が20日、福島市大町のチェンバおおまちに「わくわくサイエンス屋台村」を開設し、夏休み中の子どもたちでにぎわった。

液体窒素で風船や野菜を凍らせたりする実験に、子どもたちは興味津々な様子で取り組んでいた。

同学類産業システム工学専攻・島田邦雄助教授は「すぐに効果が表れなくても、長い目で見て科学が好きな子どもを増やしたい」と語る。理科が好きで参加したという伊達市保原町の伊藤勇希君(10)は「色々な実験があつて面白かった。将来は科学の研究者になりたい」と話していた。

読売新聞 (2006.8.26土)